

農福連携と六次産業化で地元の農地を守る (アグリわこう株式会社)

<法人の概要>

所在地：島根県松江市東出雲町

設 立：平成 22 年

資本金：100 万円 売上高：1,500 万円（平成 29 年）
（うち農業：1,500 万円、うち農業関連事業：0 万円）

役 員：3 名（うち農作業従事 1 名）

従業員数：職員 7 名、利用者 14 名

（就労継続支援 B 型事業所「わこうの里」多機能型事業所「わこう苑」の職員及び施設利用者が従事）

経営面積：10.7ha

営農作物：水稻、キャベツ、さつまいも、大豆、菌床シイタケ等

農業開始時期：平成 22 年



当初に借り入れた田から中海を望む



学習園での収穫作業

<農業参入に至った経緯・動機>

社会福祉法人「若幸会」は、入所授産施設「わこう苑」更生施設「わこうの里」で就労訓練として農業生産等に取り組んでいた。平成 22 年に農業部門を独立させ職員や施設利用者が農作業に従事するため「アグリわこう株式会社」を設立し農業参入した。その後、多機能型事業所「わこう苑」就労継続支援 B 型事業所「わこうの里」とともに農福連携の仕組みを構築しつつ現在に至っている。

<農業参入することを決めてから営農開始まで>

畑作については、それまでのキャベツ栽培のノウハウを引き継ぐことでスムーズに営農が開始できたが、稲作は、近隣農家の遊休農地化していた水田もあり茅の根の撤去など手作業で農地を復旧するところから始まり順次拡張してきた。

<営農開始から現在まで>

○畑作：畑は県内最大のキャベツ産地である揖屋干拓地内にあり「くにびきキャベツ」として大阪方面や市内飲食店などに出荷している。さつまいもは、干し芋業者に出荷するとともに、新たに整備した加工所において、さつまいもペーストにして市内のパン屋、ケーキ屋、蒲鉾工場などへ販売している。大豆は委託加工による味噌作りや「わこう苑」での豆腐作りを行う。最近では、コンテナを活用した菌床シイタケ栽培にも挑戦するなど、広く6次産業化に取り組んでいる。

○水稻：水田のある羽入地区では循環型農業を展開しており、当社の耕作する田のうち1.2haで景観形成も図りながらレンゲを植えている。レンゲは緑肥としてすき込み、その圃場で収穫した米をレンゲ米として販売している。

レンゲ畑は域外からの見学もあり、一部幼稚園の学習田にして幼稚園児や地域活動の方と一緒に田植えや稲刈りなど交流活動を行い2年目を迎えた。また、近隣在住の養蜂業者から水田耕作する代わりに養蜂のノウハウを教えてもらい連携して養蜂にも取り組み年2回のハチミツの収穫もしている。

<今後の農業経営の展開方向>

今後も現在の作物の栽培を中心に、省力化効率化を図りながら、加工品を含め得意先の要望に沿った売れるもの作りを目指していく。新規には、島根県花であるボタンを活用したプリザーブドフラワー製造事業に取り組み始めたところであり、今後、拡大を目指したい。

<今後、農業に参入しようとしている法人へのアドバイス>

農作業は季節や重労働への対応が必要であり、当初から多角経営とするかなど機械化や設備投資の計画が重要である。また、6次産業化を目指した計画や補助金の活用なども検討することが必要に思う。



さつまいもの収穫及びペースト加工作業



一面のれんげ畑



左から、はちみつ、味噌、お米、さつまいもペースト